

米軍基地環境カルテ

キャンプ・マクトリアス（施設番号：FAC6031）

沖 縄 県

改訂履歴

版数	発行年月	改訂内容
第1版	平成29年3月	初版発行
第2版	令和4年3月	「沖縄の米軍基地（平成30年12月沖縄県）」の内容を反映させた改訂。
第3版	令和8年2月	「沖縄の米軍基地（令和6年3月沖縄県）」及び「環境白書（平成27年度報告～令和5年度報告沖縄県）」の内容を反映させた改訂。

目 次

29. キャンプ・マクトリアス（施設番号：FAC6031）	29-1
29.1 基本情報	29-1
29.1.1 名称	29-1
29.1.2 所在地、広さ（施設面積）	29-1
29.1.3 施設の概要等	29-3
29.1.4 施設の管理及び用途	29-3
29.1.5 施設・区域の返還時期（見込み）、返還後の利用状況	29-3
29.1.6 土地利用規制図	29-3
29.2 基地内の環境汚染の可能性に関する情報	29-3
29.2.1 基地等の土地の状況	29-3
29.2.1.1 地形分類図	29-3
29.2.1.2 表層地質図	29-3
29.2.1.3 土壤図	29-3
29.2.1.4 切盛土分布図	29-3
29.2.2 基地内の施設の使用状況	29-4
29.2.2.1 施設配置図（埋設物含む）	29-4
29.2.2.2 施設等使用履歴	29-5
29.3 基地等の環境状況	29-6
29.3.1 自然環境（植物）	29-6
29.3.1.1 現存植生図	29-6
29.3.1.2 植生自然度図	29-6
29.3.1.3 特定植物群落	29-6
29.3.1.4 重要な種、貴重な種等	29-6
29.3.2 自然環境（動物）	29-7
29.3.2.1 重要な種、貴重な種等	29-7
29.3.3 水利用状況	29-7
29.3.3.1 水利用状況	29-7
29.3.3.2 井戸・湧水の分布状況	29-8
29.3.3.3 河川及びダムの分布状況	29-9
29.3.4 地下水の状況	29-10
29.3.4.1 地下水基盤面等高線図	29-10
29.4 当該施設及び周辺における環境関連事故等	29-10
29.4.1 事故等の概要	29-10
29.4.2 事故等発生場所	29-10
29.5 環境調査を実施する場合の留意事項	29-10
29.6 その他情報	29-11
29.7 環境等に関する通常監視について	29-12

29. キャンプ・マクトリアス（施設番号：FAC6031）

29.1 基本情報

29.1.1 名称

キャンプ・マクトリアス（施設番号：FAC6031）

29.1.2 所在地、広さ（施設面積）

<昭和 47 年 5 月 15 日>

所在地：具志川市字川崎、字西原

広さ：約 380,400 m²

出典：外務省ホームページ「沖縄の施設・区域（5・15 メモ等）（仮訳）」（1972 年 5 月）

（http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/usa/sfa/kyoutei/pdfs/02_03.pdf）を参照

<平成 30 年 12 月末現在>

所在地：うるま市（字川崎、字西原）

広さ：379 千m²

地主数：413 人

駐留軍従業員数：19 人

出典：「沖縄の米軍基地」（令和 6 年 3 月、沖縄県知事公室基地対策課）から引用

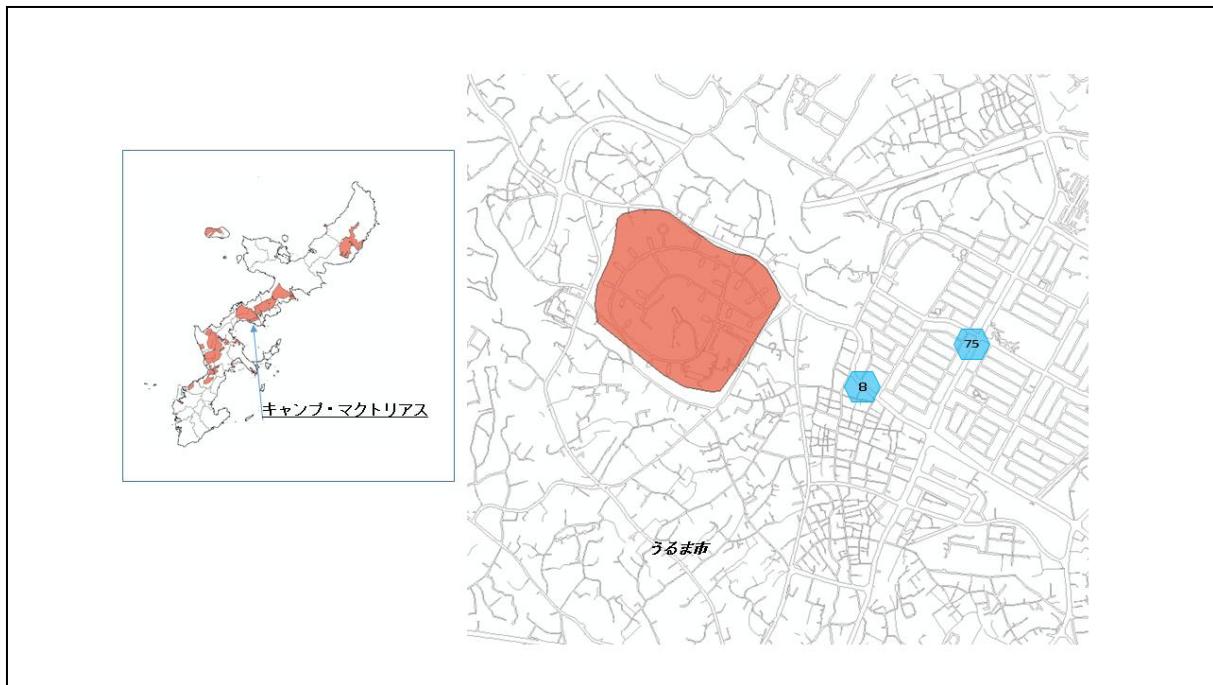


図 29-1 キャンプ・マクトリアスの位置図（平成 28 年時）

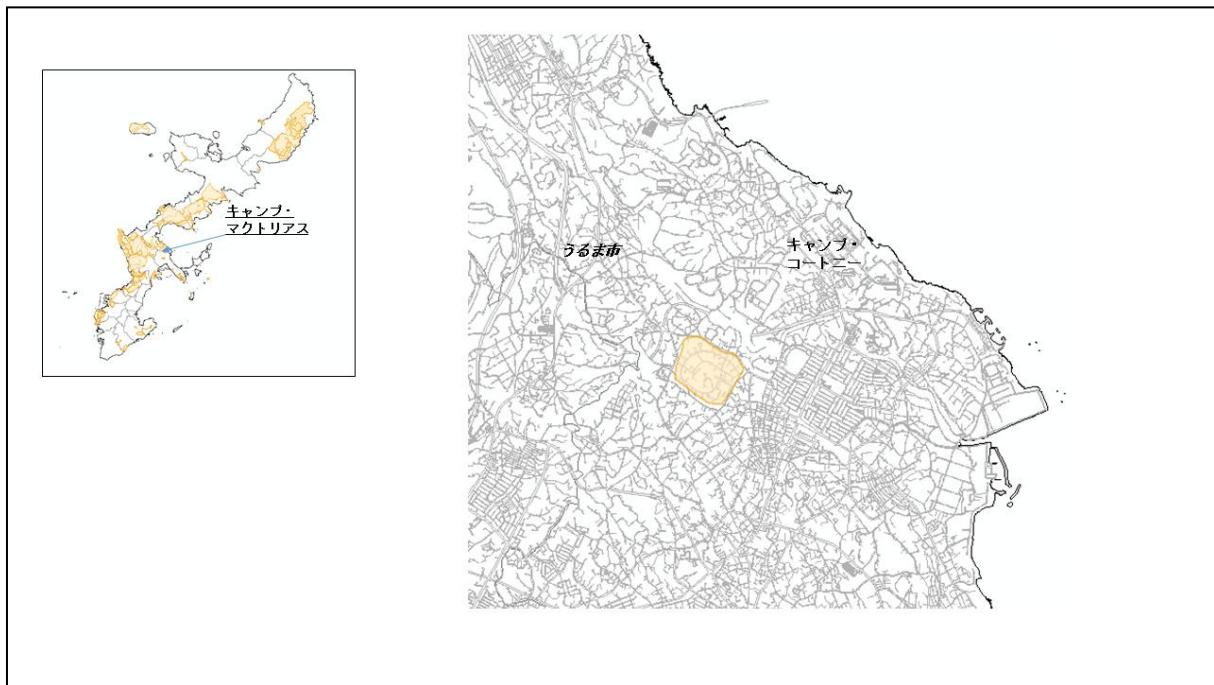


図 29-2 キャンプ・マクトリアスの位置図（昭和 47 年時）



出典：「沖縄の米軍基地」（平成 25 年 3 月、沖縄県知事公室基地対策課）から引用

図 29-3 キャンプ・マクトリアスの航空写真

29.1.3 施設の概要等

この施設は、うるま市の中心部にある安慶名区の西側、県道8号線沿線の南側にあり、昭和50年8月に在沖海兵隊基地司令部がキャンプ瑞慶覧に移駐するまでは、沖縄にある海兵隊施設の維持、管理及び海兵隊の後方支援業務を統括する任務をもっていたが、現在では、主に家族住宅が設置され、小学校、スポーツ施設等が整備され、学校、住宅地区として使用されている。

四軍共同の刑務所もあったが、昭和61年にキャンプ・ハンセンへ移設された。

当該施設用地は、宿舎等の用地として大半が人工的に変更されており、わずかに樹林地が残されている。

出典：「沖縄の米軍基地」（令和6年3月、沖縄県知事公室基地対策課）を参照

29.1.4 施設の管理及び用途

管理部隊名：米海兵隊太平洋基地在沖米海兵隊基地司令部

使用部隊名：－

使用主目的：宿舎、管理事務所及び訓練場

出典：「沖縄の米軍基地」（令和6年3月、沖縄県知事公室基地対策課）から引用

29.1.5 施設・区域の返還時期（見込み）、返還後の利用状況

＜返還計画＞

なし。

＜跡地利用計画＞

策定されていない。

出典：「沖縄の米軍基地」（令和6年3月、沖縄県知事公室基地対策課）から引用

29.1.6 土地利用規制図

キャンプ・マクトリアス及び周辺の土地利用規制図を図面集「土地利用規制図B」に示す。

29.2 基地内の環境汚染の可能性に関する情報

29.2.1 基地等の土地の状況

29.2.1.1 地形分類図

キャンプ・マクトリアス及び周辺の地形分類図を図面集「地形分類図B」に示す。

29.2.1.2 表層地質図

キャンプ・マクトリアス及び周辺の表層地質図を図面集「表層地質図B」に示す。

29.2.1.3 土壤図

キャンプ・マクトリアス及び周辺の土壤図を図面集「土壤図B」に示す。

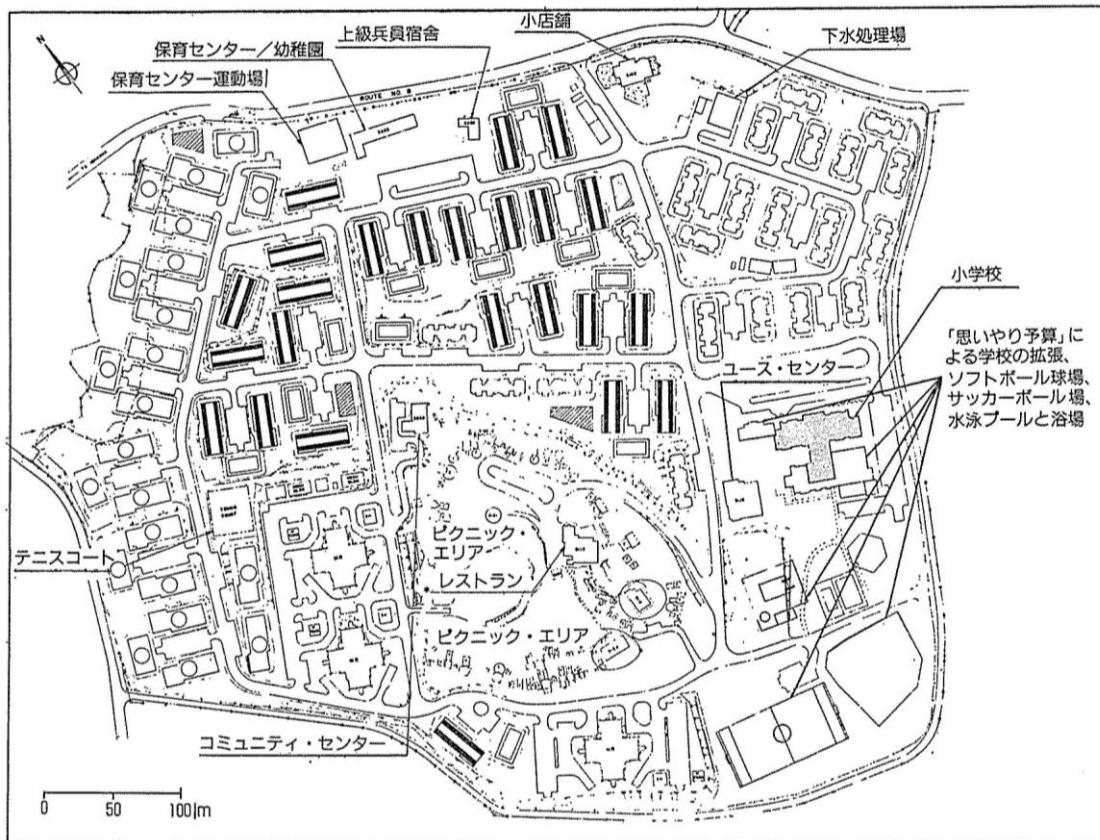
29.2.1.4 切盛土分布図

キャンプ・マクトリアスの切盛土分布図は作成されていない。

29.2.2 基地内の施設の使用状況

29.2.2.1 施設配置図（埋設物含む）

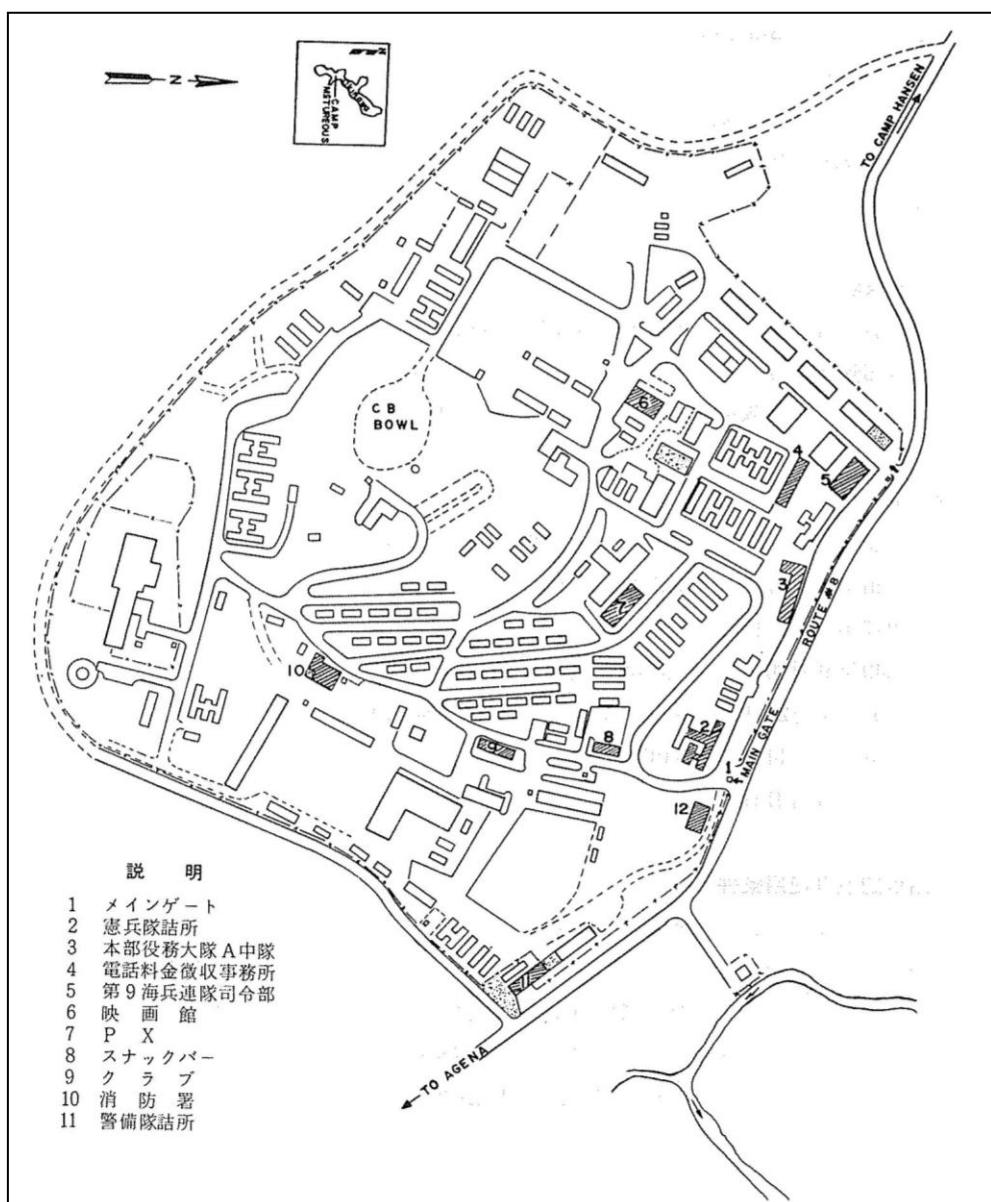
キャンプ・バトラー米海兵隊基地施設技術部「キャンプ・マクトリアス・マスター・プラン」（1987年2月、情報公開法にもとづく公開）を基にしたキャンプ・マクトリアスの施設配置図を図29-4に示す。



出典：「情報公開法でとらえた沖縄の米軍」（1994、梅林宏道）から引用

図 29-4 キャンプ・マクトリアスの施設配置図

「沖縄の米軍基地」で確認したキャンプ・マクトリアスの施設配置図を図 29-5 に示す。



出典：「沖縄の米軍基地」（昭和 54 年 3 月、沖縄県渉外部）から引用

図 29-5 キャンプ・マクトリアスの施設配置図

29.2.2.2 施設等使用履歴

- | | |
|-------------------|-------------------------------|
| 昭和 20 年 | 米陸軍貨物集積所として使用開始。 |
| 昭和 32 年 4 月 1 日 | 在沖米海兵隊基地司令部設置。 |
| 昭和 39 年 6 月 30 日 | 約 6,000 m ² を返還。 |
| 昭和 40 年 10 月 | 在沖米海兵隊基地司令部がキャンプ・コートニーへ移転。 |
| 昭和 44 年 11 月 | 在沖米海兵隊基地司令部が再びキャンプ・マクトリアスに戻る。 |
| 昭和 47 年 5 月 15 日 | 提供施設・区域となる。 |
| 昭和 50 年 8 月 | 在沖米海兵隊基地司令部がキャンプ瑞慶覧へ移転。 |
| 昭和 60 年 10 月 31 日 | 排水施設として、工作物（排水路）を追加提供。 |

平成元年	家族住宅 296 戸完成。
平成 3 年 6 月 26 日	家族住宅等として、建物約 38,000 m ² と工作物（下水等）を追加提供。
平成 4 年 5 月 14 日	土地約 390 m ² を返還。
平成 4 年 7 月 2 日	家族住宅等として、建物約 24,000 m ² と工作物（水道等）を追加提供。
平成 4 年 8 月 31 日	道路用地約 640 m ² を返還。
平成 5 年 9 月 27 日	保安柵として、工作物（囲障）を追加提供。
平成 8 年 1 月 31 日	道路用地約 5,030 m ² を返還。
平成 8 年 9 月 26 日	消防署等として、建物約 530 m ² と工作物（囲障等）を追加提供。
平成 10 年 3 月 26 日	囲障として、工作物（囲障）を追加提供。
平成 14 年 7 月 9 日	青少年センターとして、建物約 660 m ² と工作物（門等）を追加提供。
平成 15 年 3 月 26 日	学校として、建物約 2,700 m ² と工作物（門等）を追加提供。
平成 24 年 7 月 11 日	通信ケーブルとして、工作物（電話線路）を追加提供。

出典：「沖縄の米軍基地」（令和 6 年 3 月、沖縄県知事公室基地対策課）を参照

＜主要建物及び工作物＞

建 物：小学校、幼稚園、教会、消防舎、体育館、家族住宅、倉庫、青少年センター、ボイラー室ほか

工作物：保安柵、バスケットコート、サッカー場、プール、駐車場、貯水槽、上下水道ほか

出典：「沖縄の米軍基地」（令和 6 年 3 月、沖縄県知事公室基地対策課）から引用

29.3 基地等の環境状況

29.3.1 自然環境（植物）

29.3.1.1 現存植生図

キャンプ・マクトリアス及び周辺の現存植生図を図面集「現存植生図 B」に示す。

29.3.1.2 植生自然度図

キャンプ・マクトリアス及び周辺の植生自然度図を図面集「植生自然度図 B」に示す。

29.3.1.3 特定植物群落

キャンプ・マクトリアス及び周辺において、特定植物群落の該当はない。

出典：「自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」（平成 12 年 3 月、環境庁自然保護局生物多様性センター）を参照

29.3.1.4 重要な種、貴重な種等

キャンプ・マクトリアス及び周辺の重要な種、貴重な種等（植物）は確認できなかった。

出典：「～平成 27 年度版～文化財課要覧」（2015、沖縄県教育庁文化財課）を参照

29. 3. 2 自然環境（動物）

29. 3. 2. 1 重要な種、貴重な種等

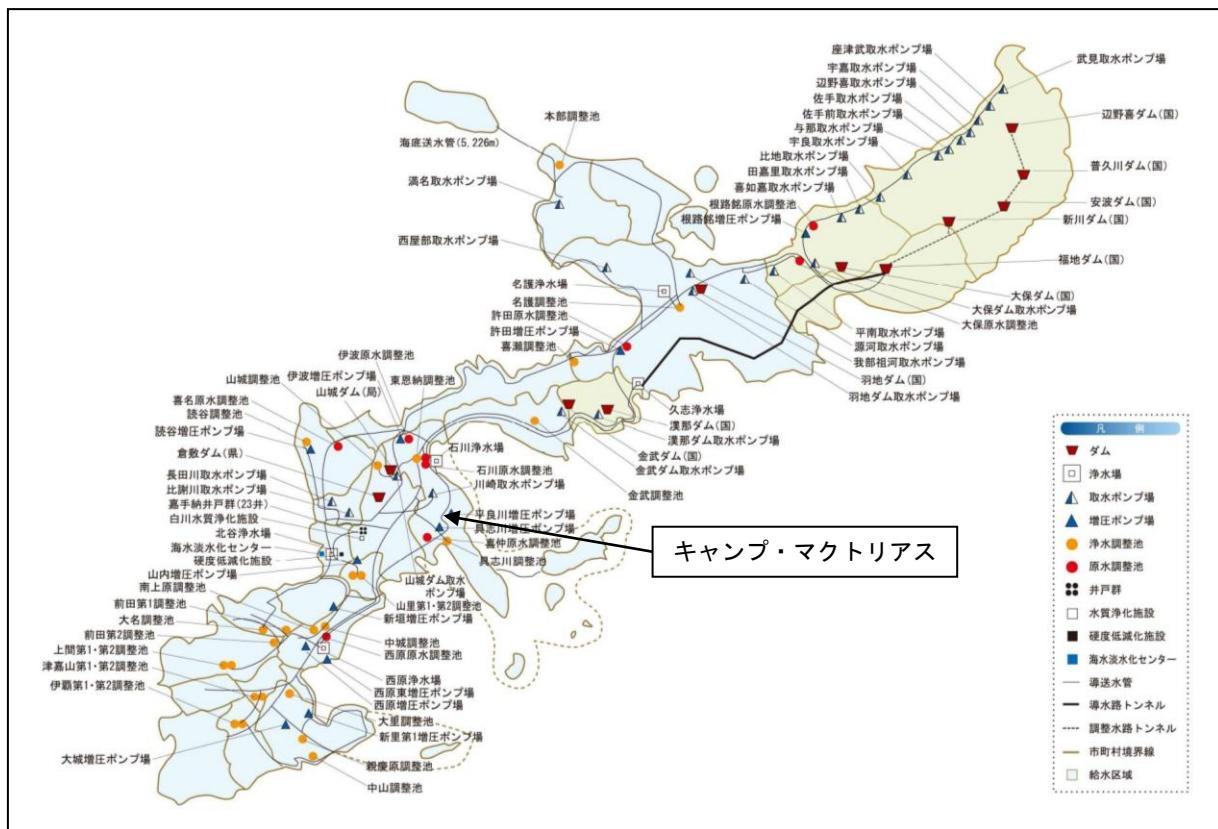
キャンプ・マクトリアスのあるうるま市で生息が確認された又は生息が可能或いは推定される、重要な種、貴重な種等（動物）は46種類いる。

出典：「自然環境の保全に関する指針〔沖縄島編〕」（平成10年2月、沖縄県環境保健部自然保護課）を参照

29. 3. 3 水利用状況

29. 3. 3. 1 水利用状況

沖縄県企業局による、沖縄島及び周辺の水利用状況を図 29-6 に示す。

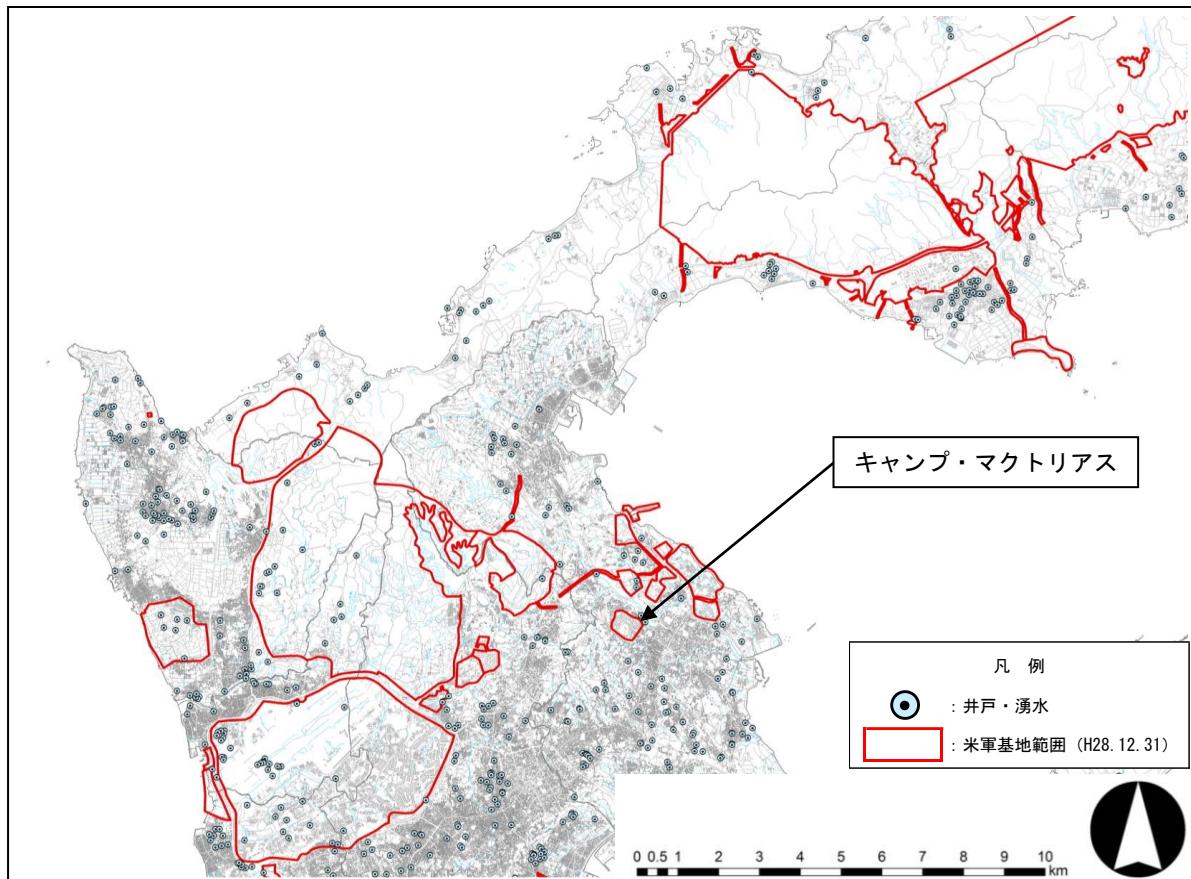


出典：「2015<平成 26 年度決算版> 環境報告書」（平成 28 年 3 月、沖縄県企業局配水管理課）を参照

図 29-6 沖縄島及び周辺の水利用状況

29.3.3.2 井戸・湧水の分布状況

キャンプ・マクトリアス及び周辺の井戸・湧水分布状況を図 29-7 に示す。



「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用した。（承認番号 平成 29 情使、 第 269 号）」

注：本図には、史書等より情報を得た井戸・湧水の位置も示されていることから、その存在や状態については、
活用者が確認する必要がある。

出典：別途記載

図 29-7 キャンプ・マクトリアス及び周辺の井戸・湧水分布状況

29.3.3.3 河川及びダムの分布状況

キャンプ・マクトリアス及び周辺の河川、ダム分布状況及びその概要を図 29-8、表 29-1 に示す。キャンプ・マクトリアス及び周辺には、二級河川が 2 本ある。

なお、周辺に国・県管理ダムはない。



「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図（タイル）を複製したものである。（承認番号 平成 29 情複、 第 301 号）」

出典：「国土地理院地図（平成29年3月）」、「国土数値情報のデータ（河川情報）」、

「沖縄防衛局管内防衛施設図（米軍基地範囲）」（平成28年12月31日現在、沖縄防衛局）を参照

図 29-8 キャンプ・マクトリアス及び周辺の河川、ダム分布状況

表 29-1 キャンプ・マクトリアス及び周辺の二級河川の概要

天願川水系 天願川	指定延長：11,900m	流域面積：31.61km ²
指定区間：（左岸）うるま市石川山城地先から海に至る （右岸）うるま市石川山城地先から海に至る		
天願川水系 川崎川	指定延長：3,800m	流域面積：12.26km ²
指定区間：（左岸）沖縄市字池原 2879 番地先から天願川合流点まで （右岸）沖縄市登川 1558 番地先から天願川合流点まで		

出典：沖縄県ホームページ「沖縄の河川資料室」掲載資料「2級河川指定一覧表（平成 25 年 4 月 1 日現在）」
を参照

29. 3. 4 地下水の状況

29. 3. 4. 1 地下水基盤面等高線図

キャンプ・マクトリアス及び周辺の地下水基盤面等高線図を図面集「地下水基盤面等高線図 B」に示す。

29. 4 当該施設及び周辺における環境関連事故等

29. 4. 1 事故等の概要

キャンプ・マクトリアス及び周辺における米軍の活動に起因する環境関連事故等の概要を表 29-2 に示す。キャンプ・マクトリアスでは建物内からディーゼル燃料が流出し、そのうち少量が天願川へ流出した事故が確認された。

表 29-2 キャンプ・マクトリアス及び周辺における環境関連事故等の概要

発生年 月日	発生場所	概要	備考
平成 23 年 12 月 5 日	うるま市	キャンプ・マクトリアス内の建物内で燃料パイプとボイラー室を接続するホースが破損し、ディーゼル燃料約 1,404 リットルが流出し、そのうち少量が天願川へ流出した。	油流出

出典：「沖縄の米軍基地」（令和 6 年 3 月、沖縄県知事公室基地対策課）を参照

29. 4. 2 事故等発生場所

キャンプ・マクトリアスにおける米軍の活動に起因する環境関連事故等発生場所の情報は確認できなかった。

29. 5 環境調査を実施する場合の留意事項

キャンプ・マクトリアスにおいて、基地内施設の使用状況及び配置等の基礎的な情報が詳細に把握できていないことから、当該施設の使用状況を踏まえて、環境調査の際には下記の事項に留意する。

- 1 現在の用途は主に兵舎であり、特に有害物質を発生する施設もない。過去の施設利用で特に問題のある箇所が見つかれば、土壤試験等を行う。

29. 6 その他情報

沖縄県が、米国立公文書記録管理局 (National Archives and Records Administration, NARA) (以下、「NARA」と言う。) で収集した在日米軍関係資料のうち、キャンプ・マクトリアス及び周辺に関する環境関連情報の概要を表 29-3 に示す。

キャンプ・マクトリアス及び周辺については、以下の資料が確認された。

表 29-3 キャンプ・マクトリアス及び周辺に関する環境関連情報の概要 (NARA 収蔵)

年月日	場所	資料の種類	概要
1970 年 7 月 12 月	—	文書	海兵隊に関する雑誌。キャンプ・マクトリアスを含むいくつかの基地の空中写真が掲載。
1964 年 10 月 1972 年 1974 年 7 月 1975 年 10 月 11 日	—	写真	基地内の状況、施設の空中写真。キャンプ・マクトリアス、キャンプ S. D. 、キャンプ S. D. 調整施設。
1972 年 1976 年 3 月 13 日	各種施設	写真	基地内の状況。施設の写真。コンセットの仮兵舎 (quonset hut) ザ・ハイダウェイクラブ、海兵隊司令部、仮兵舎 The McT. House、下士官クラブ (E. M. Club) 、海兵隊司令部、教会の状況。

29.7 環境等に関する通常監視について

在沖米軍施設・区域に起因する環境汚染を防止するため、沖縄県では基地排水等の監視、事故時の調査を実施し、水質汚濁の状況把握に努めている。

キャンプ・マクトリアスにおけるこれまでの調査で、基準に適合しなかった結果の概要を表29-4に示す。

表 29-4 米軍基地排水調査における基準不適合結果の概要

調査地点名	調査年月日	項目	値	基準
北側排水口	昭和 51 年 9 月 17 日	SS	338ppm	排水基準
天願川流入口	昭和 53 年 3 月 1 日	BOD	130ppm	排水基準
		油分	13.1ppm	排水基準
	昭和 54 年 7 月 31 日	pH	5.3	排水基準
		油分	6.1ppm	排水基準
	昭和 55 年 10 月 21 日	油分	48.1ppm	排水基準
	昭和 57 年 2 月 23 日	BOD	175ppm	排水基準
		油分	13ppm	排水基準
	昭和 57 年 6 月 9 日	大腸菌群数	5.0×10^5 coli/cm ³	排水基準
		油分	7.1ppm	排水基準
	昭和 58 年 1 月 6 日	油分	6.8ppm	排水基準
	昭和 58 年 12 月 15 日	BOD	105ppm	上乗せ排水基準
		大腸菌群数	4.1×10^3 coli/cm ³	排水基準
	昭和 59 年 12 月 6 日	BOD	122mg/L	上乗せ排水基準
	昭和 60 年 1 月 29 日	BOD	33mg/L	上乗せ排水基準
	昭和 60 年 2 月 12 日	BOD	95mg/L	上乗せ排水基準
	昭和 60 年 2 月 28 日	BOD	32mg/L	上乗せ排水基準
	昭和 60 年 4 月 25 日	BOD	179mg/L	上乗せ排水基準
	昭和 60 年 7 月 4 日	BOD	300mg/L	上乗せ排水基準
	昭和 60 年 9 月 19 日	BOD	194mg/L	上乗せ排水基準
	昭和 61 年 7 月 10 日	BOD	88mg/L	上乗せ排水基準

◆ 上乗せ排水基準

BOD (日最大 40mg/L、日間平均 30mg/L)

◆ 一律排水基準

pH (5.8 以上 8.6 以下)、BOD (日最大 160mg/L、日間平均 120mg/L)、SS (日最大 200mg/L、日間平均 150mg/L)、

大腸菌群数 (日間平均 3,000 個/cm³、令和 4 年 4 月から大腸菌数に改正)、

n-ヘキサン抽出物質含有量 [油分] (鉱油類含有量: 5mg/L、動植物油脂類含有量: 30mg/L)

出典: 「環境白書」 (昭和 51 年度報告～令和 5 年度報告、沖縄県) を参照